

69期生

1年学年だより



豊中市立第五中学校 2020年10月16日(金) No.13

人権学習

～酒井さんの聴き取り学習～

先日、体育館で人権平和センターとよなか（旧人権まちづくりセンター）より酒井留美さんに来ていただき、お話を聴きました。5中校区のテーマ～夢バトン はみごのないまち学校づくり～について、体験や5中生の歴史とともに詳しく語っていただきました。その一部の紹介と感想を載せました。

酒井さんと第五中学校

酒井さんはセンターで人権についての仕事や相談をしたり、学校や企業に講和をしたりしています。また、差別をなくすための活動を行っています。5中出身で、22期生ということをおっしゃってましたね。君たちよりかなり先輩!!



酒井さんは5中生だった頃のお話をしてくださいました。本当の自分が出せず、強がっている自分を

ずっと周りに見せていたそうです。しかし、まわりの人から“はみご”を受けてきて、自分らしく生きることや、人と接することが嫌になったりしました。しかし、自分のことを理解し、話を聞いてくれる友達ができました。心に明かりがとまり、『自分は一人じゃない!』と強い気持ちになることができたそうです。

～夢バトン はみごのないまち学校づくり～

5中の53期生の『誰一人はみごにしないんや!』という学年の強い思いからこのテーマがうまれました。5中のみでなく、学校も地域もみんなという意味も込められています。これから夢バトンを握って後輩に引き継いでほしい。これからたくさんの出会いがありますが、人それぞれの想いや願いをしっかりと受け止めてほしい。そんな願いを酒井さんは語っておられました。（旧人権まちづくりセンター）



人権平和センター豊中

（旧人権まちづくりセンター）

未来につなげる夢バトン

みんな平等

作詞 五中第五十六期生

自分らしく

作曲 小林 理子 喜多 陵介

悲しい時 さみしい時 きっと誰かが そばにいるよ
一人ひとりがつながりあえば 不安や孤独は消えてゆく
強くなれる 信じあえる 一緒に歩いてゆく 仲間がいれば
伝えていくよ 伝えていくよ 未来につなげる夢バトン
うれしい時 楽しい時 いつも誰かと 分け合っている
一人ひとりが笑顔になれば 豊中の町に花が咲く
夢をもてる 勇気出せる 思いを分かち合える 仲間がいれば
伝えていくよ 伝えていくよ 未来につなげる夢バトン

今回学んだことは、これからの学びにつながることであり、つなげていってほしいと思います。69期生のみなさん！仲間を大切に！！

→裏面につづく みんなの感想（一部ですが）を載せました。

自分がこれから生活していく中で『たいせつにしたい』と思ったこと

もしはみごにされている人がいたら、話を聞いてあげること。
声をかけてあげられる優しさ。周りにもっと気を配れるようにしたい。
その人自身を見るようにする。
今まで以上に相手の気持ちを考えるようにしたい。
はみごをなくしたい！先輩がつないてくれた“夢バトン”を後輩にもつなぎたい。
はみごになっている人がいたら助けてあげたりするなど他人のことを大切にしていきたい。
どんな人にも優しくしていく気持ちを大切にする。
友達と話をするときは全員同じ態度で接する。
みんなが安心・安全に暮らせること。
1人1人友達に話しかけていこうと思った。
1人1人を大切にしていきたい。
みんなが笑顔で楽しく生活できるようにもっと周りを見ようと思いました。
メールとかラインとかも言葉に気を付けてはみごをなくしたいです。
お互いに相談できるような仲になること。
みんなが平和で笑っていられることを大切にしたい。
自分はなにができるか、どういう発言ができるか考える。
人とのつながり。
仲間外れをしないで、はみごのない町にしたいなあと思いました。
一番に思ったのは友達です。
一緒に歩む人がいれば何でも乗り越えられると思えた。
みんなで楽しむことを大切にしたい。
差別をしないこと。みんなの話を聞いて考える。
仲間を大切にしたい。
人の不快に思う言葉を言ってはいけない。
命の重みを大切にする。
間違ったことをちゃんと注意してくれる友達を大切にしたいです。
どこどこが嫌やったかをちゃんと相手に伝えられるようにする。



感想

出身が違うだけではみごにしたりする人がいるけど、そんな人にはならず話を聞いてあげたい。
差別をなくすために働いてくれている方々がいることを知って、自分が成長できるいい機会になった。
酒井さんは人と話をするのが怖かったのにそれを克服して人と話したり活動したりしているのがすごかった。
住んでいる場所などではみごをしないように心がけます。
『いじめ』や『はみご』は絶対してはいけないということをあらためて感じました。
友達の相談を聞いてあげることが大切なことですが、なかなか難しいし『自分もはみられたらどうしよう』という思いでなかなか踏み出すことが難しいけれど勇気を出して聞いてあげることが大切だと思いました。
自分がされたらどんな気持ちになるか考える。
昔の話だと思っていたけれど、今日の話聞いて今も続いているんだなと思った。
なくすことは難しいけれど一人一人心がけたらなくなると思う。
小4のときはあまり話がわからなかったけれど今回の話でよくわかった。
昔5中にすごい人がいたと聞いて、もっと話をきいてみたいと思った。
人権を大切にすることが大事だと感じました。
はみごをしたところで誰も得はしない。された人は一生の傷になるし、はみごにしていた人は後から後悔すると思う。
人として大事なことは何か、この5中に来て何を学んで成長していかなければいけないのか、それを知っているいろいろなことを大切にしていこうと思った。
けんかじゃなく、笑顔で差別をしないということ。
自分が大人になっても差別はしたくないと思った。
中学校に行くときは不安でしたし、ありのままの自分を出せてなかったです。話を聴いて自分を出していたらなと思いました。
夢バトンを始めたのは先生ではなく、5中生だということに驚いた。
嫌いな所を探してもっと嫌いになっちゃうこととかあるから、その人のいい所を探すようにしたいと思った。

酒井さん、本当にありがとうございました。

